

日本語・日本史 韓国教壇実習			
日時	2009年2月15日(日)～21日(土)		
会場	同徳女子大学校(韓国・ソウル市)		
参加者	お茶の水女子大学大学院生 8名		
	グループ1 (日本語教育)	グループ2 (日本語教育)	グループ3 (日本史)
	福富理恵、小松奈々、 呉曉婧、黄明淑 (以上、博士前期課程比較 社会文化学専攻日本語教育 コース1年)	早川杏子、張倩、金秀恵 (以上、博士前期課程比較 社会文化学専攻日本語教育 コース1年)	染井千佳 (博士後期課程比較社会文 化学専攻1年)
	同徳女子大学校大学院生 10名		
指導教員	お茶の水女子大学	森山新 佐々木泰子	
	同徳女子大学校	李徳奉 金榮敏 石井奈保美 奥山洋子 金榮淑	

日本語・日本史教壇実習は2009年2月、韓国の協定校、同徳女子大学にて開催された。今回は教壇実習に何らかの新たな試みが含まれることが求められていた。

16日、大学を訪れた本学一行は簡単に自己紹介とオリエンテーションを済ませ、まずは本学のグループ1(福富、小松、黄、呉)の4名による日本語教壇実習が行われた。今回は日本語の「あいづち表現」を扱った。学習者自らあいづちの重要性に気づき、習得に結びつけていく流れになっていた。引き続き韓国側から大学院生、西岡、倉持、柳川、栗飯原、張による「協働・交流活動を取り入れた日本語教育」の授業が行われた。午後にはこれらの教壇実習に関するジョイントゼミが行われた。まず、それぞれの授業について担当者から趣旨説明があり、それについて質疑応答やコメントがあった。

17日はまず、本学のグループ2(早川、金、張)による日本語教壇実習があり、「認知言語学的観点を用いた教授法」による文末表現「～んだ」を扱った。認知言語学では最近 Achard (2004, 2008) が具体的な教授法を提示しており、今回はそれを日本語教育に応用したものであった。続いて韓国側は昨日に続き、5名により「協働・交流活動を取り入れた日本語教育」の授業が行われた。2日間の授業は言語のみならず(異)文化を扱った内容で、協働・交流活動で自ら学びを得るように工夫されていた。午後は同じく、教壇実習に関するジョイントゼミがあり、趣旨説明と質疑応答が行われた。

18日はまず、同徳女子大の女性学センター内の博物館を見学、朝鮮時代の女性について学習した。午後は本学のグループ3(染井)による日本史の教壇実習があった。授業は比較史の観点から「韓国の武人と日本の武士」について扱われた。この授業も従来韓国で行われているような韓国語による知識付与型の授業ではなく、学習者自らが自国の武人と比較する中で日本の武士について考察する授業で、日頃日本史に関心を持っていなかった学生たちも日本史に対して関心を持ったようであった。実習後、引き続きそのジョイントゼミが行われた。

各々の教壇実習は、それぞれがこれまで自分たちが学んできた内容をもとに準備してきた教案と教材を用いて行われ、どれも非常に工夫が凝らされ、多くの学びを与え合う場となった。日韓両国の教員や院生からコメントや意見も出され、参加者は多くの学びを得たようであった。

参考文献

- Achard, M. (2004) Grammatical instruction in the Natural Approach: A Cognitive grammar view. In Achard, M and Niemeier, S (eds.) *Cognitive Linguistics, Second Language Acquisition, and Foreign Language Teaching*: 165-194. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Achard, M. (2008) Teaching construal: Cognitive Pedagogical Grammar. In Robinson, P. and Ellis N. C. (eds.) *Handbook of Cognitive Linguistics and Second Language Acquisition*: 432-455. NY: Routledge.

【文責：本学比較日本学教育研究センター長 森山 新】